

上顎前歯部に重度の叢生を伴う思春期女子の矯正歯科治療前後における
スマイル時正貌画像の魅力評価：Web アンケートによる日米比較研究
井上 真帆

論文内容の要旨

犬歯の唇側転位を伴う上顎前歯部の叢生は、日本において「八重歯」と呼ばれ好ましい特徴とされているが、国際比較を行った研究はない。本研究は、上顎前歯部に重度の叢生（MxAC）を伴う思春期女子の矯正歯科治療前後におけるスマイル時正貌画像の魅力について、Web アンケートを用いて日米間で比較することを目的とした。日米の一般人から男女同数の 15～18 歳の思春期参加者 100 名と 20～44 歳の成人参加者 100 名をそれぞれ JP 群と US 群として選択し、MxAC を伴う思春期女子患者 6 名の治療前後に撮影したスマイル時正貌画像の魅力を 5 段階で評価させた。6 名のモデルで好ましいと評価された画像の枚数をそれぞれ治療前と治療後の preference score（PS）として算出後、両群間と治療前後間で比較し、さらに各群それぞれで治療前後において思春期参加者と成人参加者の間、および女性参加者と男性参加者の間で比較した。また各参加者の治療後の PS から治療前を減算して PS の変化を算出し、両群間で比較した結果、以下の結論を得た。

1. JP 群の PS は、治療前は US 群よりも有意に大きく、治療後は有意に小さかった。
2. 治療前の女性参加者の PS は、JP 群の方が US 群よりも有意に大きかった。
3. 治療後の成人参加者の PS は、JP 群の方が US 群よりも有意に小さかった。
4. 両群ともに性別と年齢に関わらず、治療後の PS は、治療前よりも有意に大きかったが、治療に伴う PS の変化は、JP 群の方が US 群よりも有意に小さかった。
5. 両群ともに成人参加者の PS は、治療の前後で思春期参加者よりも高かった。

論文審査の結果の要旨

本研究では、MxAC を伴うスマイル時正貌の魅力評価は、矯正歯科治療前は日本の方が米国よりも高く、治療によって日米ともに高まるが、治療前後の変化は日本の方が小さいことを示唆し、さらに日米ともに世代間で評価が異なるという特徴を明らかにしている。これらの知見は、MxAC を伴う思春期女子の治療前後のスマイル時正貌の魅力評価における日米間の違いを明らかにし、歯学に寄与するところが多く、博士（歯学）の学位に値するものと審査する。

主査	五味	治徳
副査	春原	正隆
副査	岩原	香織

最終試験の結果の要旨

井上 真帆に対する最終試験は、主査 五味 治徳 教授、副査 春原 正隆 教授、副査 岩原 香織 教授によって、主論文を中心とする諸事項について口頭試問が行われ、優秀な成績で合格した。